### parsexml

XMLドキュメントを複合オブジェクトの集合としてパースします。

#### 構文

parsexml [field=TARGET\_FIELD] [overlay=BOOL]

オプション

**field=TARGET\_FIELD**

入力データストリームからパース対象となる値が格納されたフィールド名（デフォルト: line）

**overlay=BOOL**

元データの出力オプション（デフォルト: f）

* t: パースされたデータを各フィールドに出力し、元データは**line**フィールドに出力
* f: パースされたデータのみを各フィールドに出力

#### 使用例

ルートXML要素に含まれる下位XML要素をフィールドとして抽出します。

* XML要素が文字列のみを含む場合、要素タグをフィールド名として使用し、フィールド値に文字列を割り当てます。
* XML要素に属性がある場合、各XML属性の名前と値のペアをマップのキー・値のペアとして、XML要素の文字列は\*\*\_text\*\*フィールドの値として変換されます。

例えば、<doc><id>sample</id></doc>形式のXMLをパースすると、**id**フィールドにsampleという文字列値が割り当てられます。

形式のXMLの場合、**name**フィールドには{"locale":"ko","\_text":"ログプレッソ"}のように、locale=ko、\_text=ログプレッソという2つのキー・値のマップが割り当てられます。[parsemap](https://docs.logpresso.comnull)コマンドと組み合わせることで、複合オブジェクト内のマップから簡単にフィールドを抽出できます。

json| parsexml| parsemap field=name overlay=t